［撮影場所］尾道市立美術館

夢を実現できる、誇れるまちへ

市長対談

2012年に姉妹都市提携を締結し、交流を深める松江市と尾道市。今年3月には、両市をつなぐ中国やまなみ街道（中国横断自動車道尾道松江線）が全線開通10周年の節目を迎える中、上定昭仁松江市長と平谷祐宏尾道市長が対談し、両市交流のさらなる発展を誓いました。

歴史的なまちなみの保存と活用

上定市長　松江市美保関町において、重要伝統的建造物群保存地区制度の導入を検討しています。北前船の寄港地で、えびす様の総本宮・美保神社が所在するなど、深い歴史に彩られた地域です。制度導入によって、貴重なまちなみを保全し観光振興につなげるとともに、市民の愛着や誇りが育まれるきっかけにしたいですね。唯一無二の誇れるふるさとを自負して、自分のこどもたちこのまちで育てたい、生まれ育ててもらった松江に恩返ししたいといった想いが芽生えることを期待しています。

平谷市長　古くから港町として栄えた尾道は、限られた生活空間に多くの寺社や住宅、銀行街が立ち並ぶ歴史の趣を今に残す「箱庭的都市」です。05、06年に2度の合併があり、まずは文化庁のモデル事業を活用して文化的なものをすべて調査、整理した上で保存活用計画を作りました。もともと歴史的風致の維持のために景観規制もあり、長年の取り組みが評価されて文化庁長官から表彰いただき、日本遺産の認定は一つの市で全国最多の3件あります。歴史的に価値の高い地域資源は作り直すことはできないので、国の方針と合わせながら取り組みを進めています。

Profile 松江市出身。島根県立松江南高校から九州大学法学部を経て、1995年、日本開発銀行（現日本政策投資銀行）に入行。国土交通省係長、シンガポール駐在、人事部、社長秘書などを歴任し、2017年4月から松江事務所長を務めた。19年6月、米州法人CEO（最高経営責任者）に就任。20年12月に日本政策投資銀行を退職。21年4月から松江市長（現職）。

水辺を生かしたまちづくり

上定市長　松江は「水の都」と呼ばれますが、まだまだその魅力を生かせる「伸びしろ」があります。私たちの親の世代は宍道湖で泳いだり、釣りをして獲れた魚を食べたりしていました。しかしながら、今のこどもたちにとって宍道湖は、「夕日がきれいな場所」ではあるものの「遊び場」とまでは言えません。それではもったいないと考えて、宍道湖に浮かぶ嫁ヶ島まで歩いて渡るイベントを企画したり、国土交通省と連携して松江市役所の南側の宍道湖岸に「ちゃぷちゃぷ」できる親水広場の整備に取り掛かっています。憩い・集い・楽しめる水辺空間を創ることで、市民や旅行者のみなさんに「水の都」を身近に感じてもらいたいですね。

平谷市長　尾道は、町の中心を通る「海の川」とも言うべき尾道水道の恵みで繁栄した海の町です。その特性を定住促進や観光振興につなげるため、マリンスポーツの聖地を目指す官民連携の取り組み「尾道海属」を行っています。尾道の海を愛する仲間たちを増やし、マリンスポーツに親しむ機会を増やす内容です。今では東京から移住し、カヤックを貸し出すビジネスを始める人も出てきました。シャンパン片手に夕日を楽しむサンセットクルーズも人気です。基幹産業の海事産業とは別に、少し違う角度のビジネスが生まれているのはうれしいですね。

Profile 尾道市出身。1977年山口大学教育学部を卒業後、中学校教諭として従事。教育事務所長などを歴任後、尾道市教育委員会教育次長を経て、2003年尾道市教育委員会教育長に就任。07年尾道市長に就任し、現在5期目。

豊かな食文化

平谷市長　隣の岡山県は桃とマスカットのイメージから、フルーツ王国と言われています。尾道はその二つに加えてイチジクもあり、合併によって島しょ部には柑橘のフルラインナップです。私は尾道の方がフルーツ王国だと思うんですね。尾道の近海の魚介や尾道産プランド農産品もたくさんあるので、これを切り口に広島県の「おいしい！広島プロジェクト」と協調しながら、新たな展開を仕込んでいる最中です。

上定市長　松江の「食」でまず思い浮かぶのがお茶と和菓子ですね。松江市は、茶の湯文化を広めた松江城主・松平不昧公が亡くなった4月24日を「茶の湯の日」として制定し、毎月24日の月命日は「茶の湯文化に親しむ日」としてイベントを開催したり、給食で抹茶プリンを提供するなどしています。さらに、「出雲そば」も松江を代表する食文化ですが、松江がその発祥の地と知っている人は少ないんです。信州松本から新たに藩主として松平直政公が入った後、松江城下で「そば切り」がふるまわれた史料が残っているんですよ。22年には、松平直政公が出雲国・松江藩への国替えを命じられた2月11日を「出雲そばの日」に制定し、翌23年に独自ブランド「松江松平そば」を売り出しました。市内8軒のそば屋において、山菜そばや天ぷらそばなど多彩な種類のそばを、松平家の正式な家紋が入った八雲塗の共通のお椀で提供していて、人気を博しています。

やまなみ街道10周年

平谷市長　両市間の移動が車で2時間ぐらいなので、スポーツ交流の機会は多いですね。そうした機会をもっと作れば、もっと交流が深まると思います。例えば松江でサイクリングの大会を開いたら尾道から走りに行きますよ。両市をつなぐ「やまなみ街道」を縦貫するサイクリングもいいと思いますね。自転車だと交通費があまりかからないメリットを生かして、道中にそばや抹茶、和菓子などおいしいものを入れて、最後は松江特産のボタンを渡すなど、両市の魅力も感じられ、楽しめるイベントにするのもいいですね。

上定市長　その通りですね。松江市では、中海・宍道湖・大山圏域にまたがる、日本海と中海・宍道湖沿いのおよそ210キロのサイクリングコースを、国内外のサイクリストや旅行代理店に提案しています。中国やまなみ街道は、プロの自転車選手向けのストイックなコースと捉えられており、さらに途中休憩する場所が少ないといった課題もありますが、これらを克服することで魅力的な観光コンテンツに昇華したいですね。また、しまなみ海道と結節・連携し「道」をつなげることで、サイクリストにとってより魅力的なフィールドとなるよう取り組みます。

文化、芸術

平谷市長　文化芸術創造都市の尾道は名誉市民の洋画家・小林和作さんが美術協会を創設したことを契機に、芸術文化振興の取り組みを継続しています。文化勲章をもらった彫刻家・圓鍔勝三さんや日本画家・平山郁夫さんなどの作品を伝える美術館が尾道だけで五つもあります。高校生の絵画も熱心で、こどもたちが町で絵を描いていたら、地域の人が差し入れを渡してもてなすことが日常風景。まさに絵の町なんです。さらに尾道三部作など映画の町でもあって、芸術文化はまちづくりの一つの核になっています。

上定市長　国際文化観光都市の松江には、茶の湯文化が普及した背景から、茶器や和菓子など伝統的なものづくりを担う職人がたくさん暮らしていて、市民や観光客が気軽に「匠」の技を体験・見学できる「職人商店街」の形成を進めています。着実にお店がつながってきて、多様性のあるまちなみが形作られ、まちの価値を高めています。また、今年の秋から「怪談」の作者として知られる明治時代の文豪・小泉八雲の妻セツをモデルにしたNHKの連続テレビ小説「ばけばけ」が始まります。全国から注目を浴びる千載一遇のチャンスを生かして、「ばけばけ」とともに松江の魅力を発信していきたいと考えています。

平谷市長　10年から11年に放送されたNHK連続テレビ小説「てっぱん」で尾道焼きが有名になりました。実はそんな名前の物はなかったんですが、砂ずりとイカ天を入れたお好み焼きがテレビで尾道焼きとして紹介されました。ドラマ効果は大きくて、食べに来る人が増えましたし、尾道焼きとして定着。「ばけばけ」で、そうした仕掛けをしても面白いかもしれませんね。

上定市長　とても参考になります。24年末に官民26団体で構成する「小泉八雲・セツのドラマをイカしてバケる松江推進協議会」を立ち上げました。NHKの朝ドラを視聴されたみなさんに「松江に行きたい」「松江の食や文化を楽しみたい」と、関心を持ってもらえる仕掛けを考えてまいります。